

下水道施設標準図

(令和 8 年度改訂版)

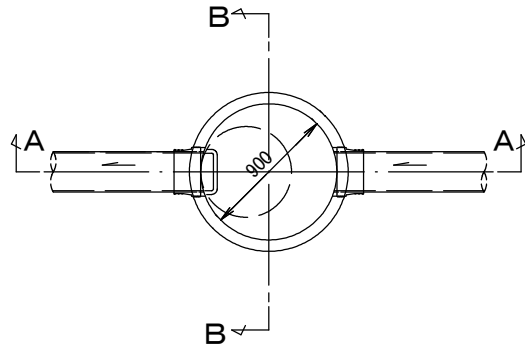
宇治市上下水道部下水道計画課

目次

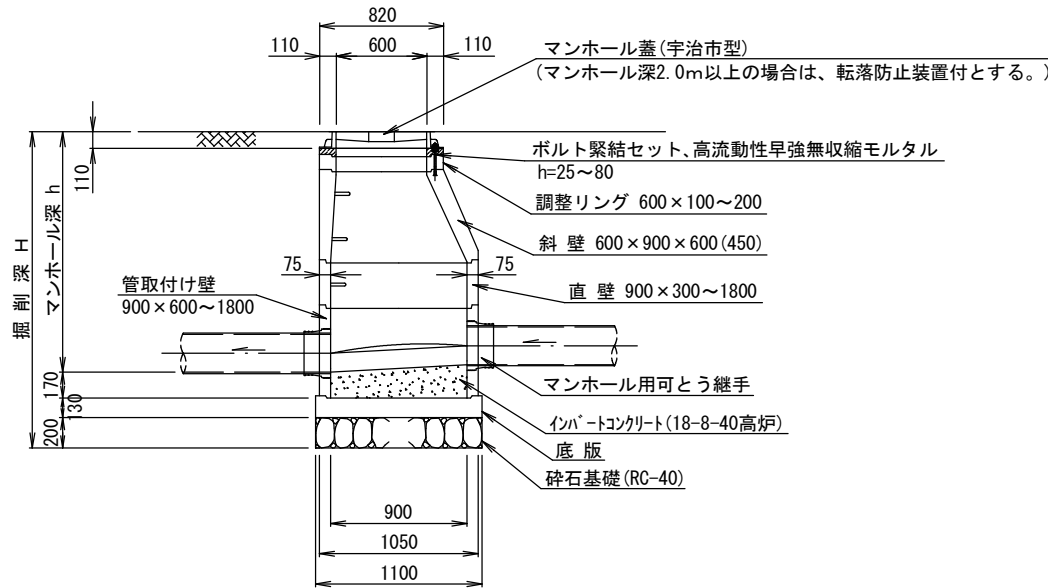
図面番号	図面名称
1	鉄筋コンクリート製1号組立マンホール標準図
2	特1号(方形形・楕円形)組立マンホール標準図
3	小型レジンマンホール標準図
4	硬質塩化ビニル製小型マンホール標準図
5	副管標準図(小型レジンマンホール)
6	下水道用硬質塩化ビニル管布設標準図
7	インバート施工図
8	取付管φ150及び標準横型公共汚水ます設置標準図
9	取付管φ150及び標準縦型公共汚水ます設置標準図
10	取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その1)横型設置標準図
11	取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その1)縦型設置標準図
12	取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その2)設置標準図
13	取付管φ200及びφ300塩ビ製公共汚水ます設置標準図
14	取付管φ150マンホール接続標準図
15	取付管φ200マンホール接続標準図
16	取付管φ150官民境界部キャップ止め標準図
17	取付管φ150支管部キャップ止め標準図
18	宇治市型鑄鉄製マンホール蓋
19	宇治市型鑄鉄製マンホール蓋(次世代型)
20	宇治市型鑄鉄製マンホール蓋(小型レジンマンホール用)
21	宇治市型鑄鉄製防護ふた(硬質塩化ビニル製小型マンホール用)

鉄筋コンクリート製1号組立マンホール標準図 S=1:50

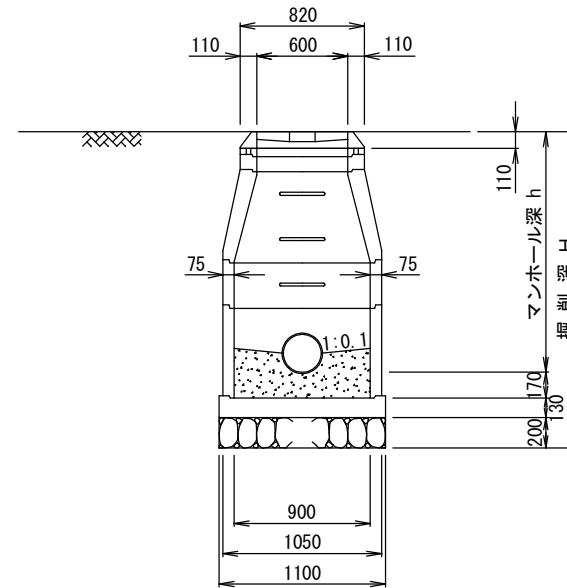
平面図



A-A断面図



B-B断面図



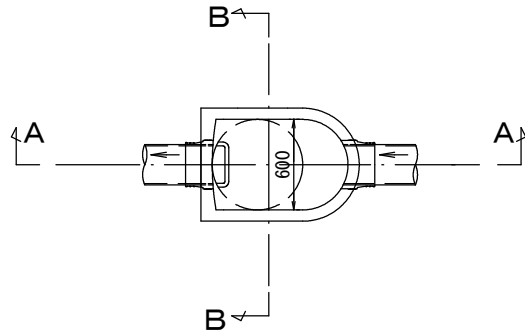
(参考図)

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	鉄筋コンクリート製1号組立マンホール標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
製図	写図
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉ノ中 1

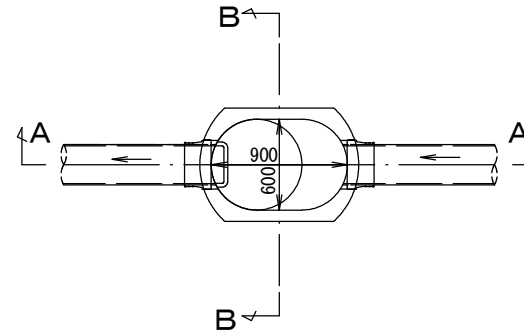
※ I 類資器材指定品 (JSWAS A-11・G-4) ・ II 類資器材登録品とする。
 ※ 底版は、フラット底版又は、底版一体型管取付け壁を使用すること。
 ※ 上流管きよと下流管きよの最大ステップ値は下流管径以下とするが、円滑な流下を図るため、必ずインパートを設けること。
 ※ 既設マンホールに接続する場合においても、必ずマンホール用可とう継手を設置すること。

特1号(方円形・楕円形)組立マンホール標準図 S=1:50

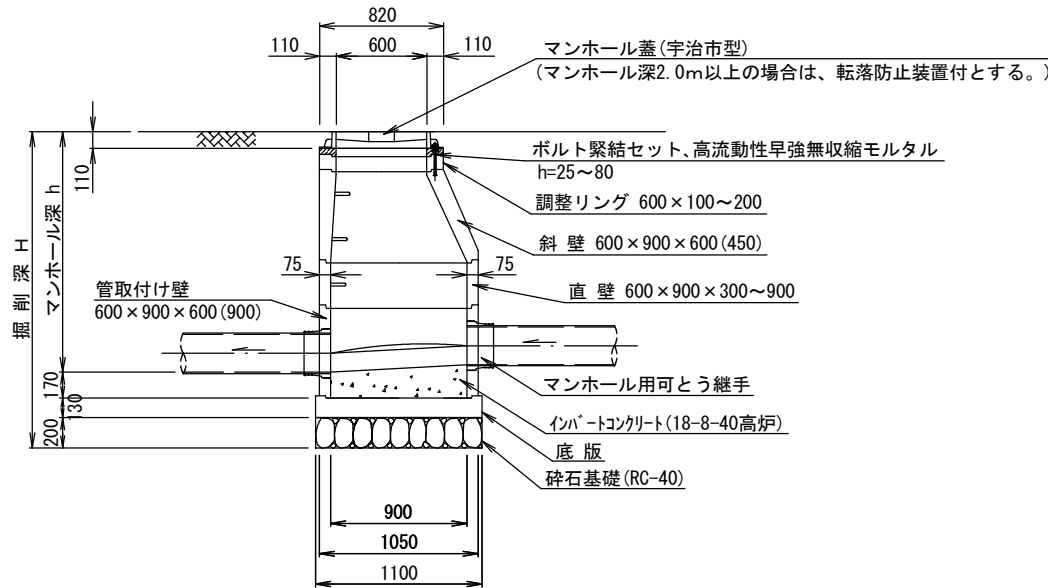
平面図
(方円形)



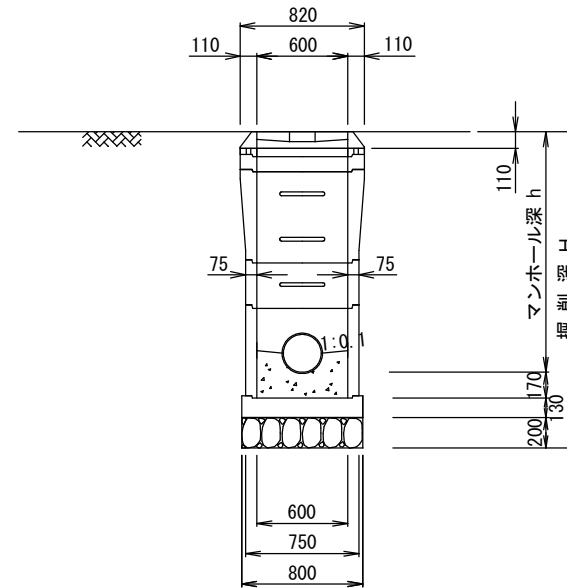
平面図
(楕円形)



A-A断面図
(方円形・楕円形共通)



B-B断面図
(方円形・楕円形共通)



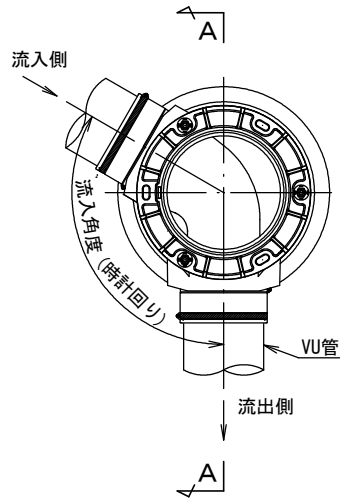
※ I 類資器材指定品 (JSWAS A-11・G-4) ・ II 類資器材登録品とする。
 ※底版は、フラット底版又は、底版一体型管取付け壁を使用すること。
 ※上流管きよと下流管きよの最大ステップ値は下流管径以下とするが、円滑な流下を図るため、必ずインパ-トを設けること。
 ※既設マンホールに接続する場合においても、必ずマンホール用可とう継手を設置すること。

(参考図)

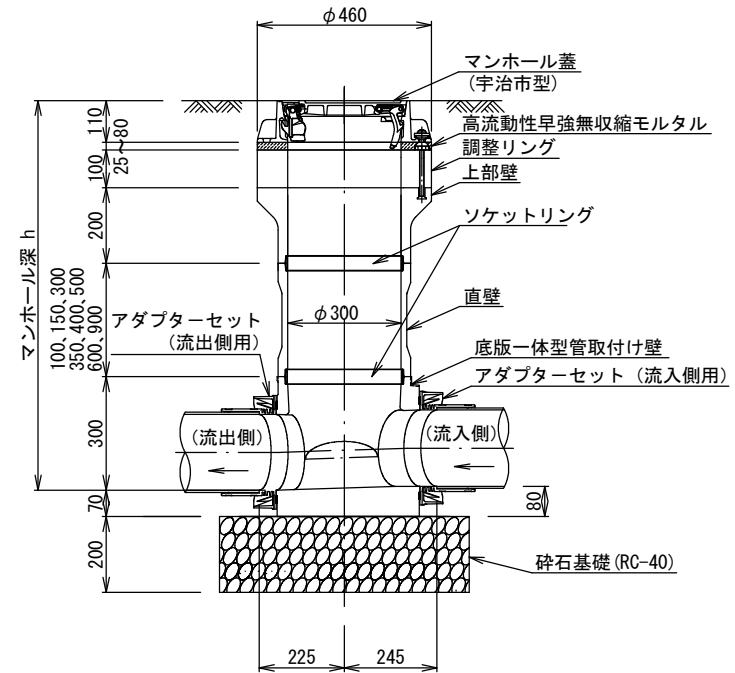
工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	特1号(方円形・楕円形)組立マンホール標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 2

小型レジンマンホール標準図 S=1:20

平面図



A-A断面図

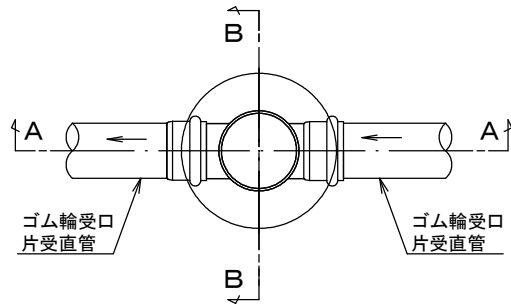


工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	小型レジンマンホール標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉ノ中 3

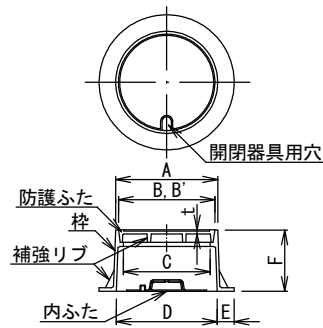
※ I 類資器材指定品 (JSWAS K-10・G-4) とする。
 ※ 上流管きよと下流管きよに段差が生じる場合は、必ず0.6m以上として外副管を設けること。

硬質塩化ビニル製小型マンホール標準図 S=1:30

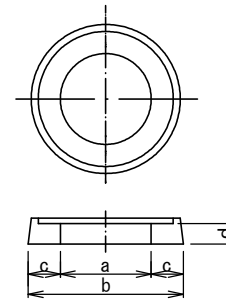
平面図



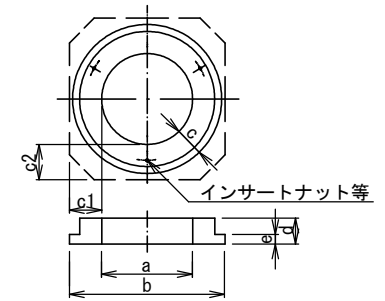
防護ふた



台座(ふた高さ150mm)



台座(ふた高さ110mm)



【標準型防護ふた T-25, T-14 寸法表】 (単位: mm)

立上り管呼び径	高さ(許容差±2.5)	台座の材質	A(最小)	B, B'(最小)	C(最小)	D(最小)	E(最小)	t(最小)
300	110	レジンコンクリート-鉄筋コンクリート	403	386	360	400	40	6
	150	再生プラスチック-レジンコンクリート						

【標準型台座 PB25A, RB25A(ふた高さ150mm) 寸法表】 (単位: mm)

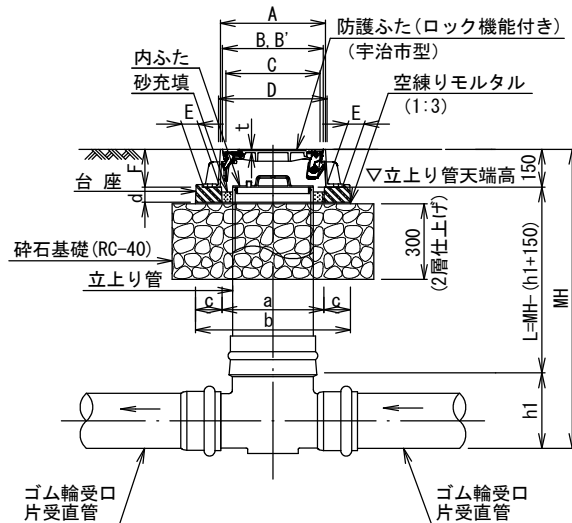
立上り管呼び径	ふた高さ	a(最小)	b(最小)	c(最小)	d(最小)
300	150	330	570	80	55

【標準型台座 RBA, CBA(ふた高さ110mm) 寸法表】 (単位: mm)

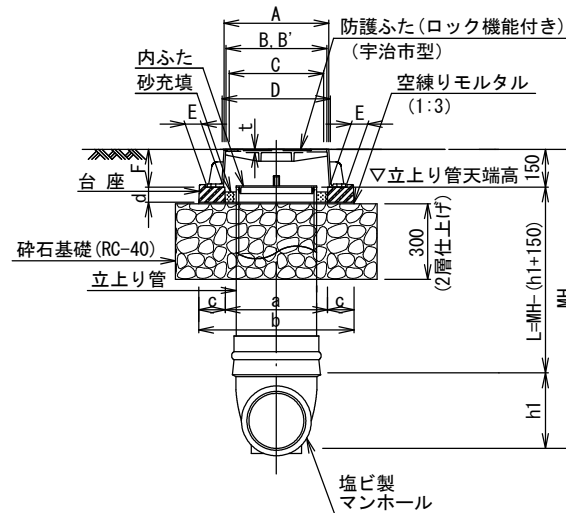
立上り管呼び径	ふた高さ	丸型			角型			d(最小)	e(最小)
		a(最小)	b(最小)	c(最小)	c1(最小)	c2(最小)	c3(最小)		
300	110	330	570	80	70	90	95	35	

※ Bはふたの外径、B'は枠の内径を示す。

A-A断面図



B-B断面図



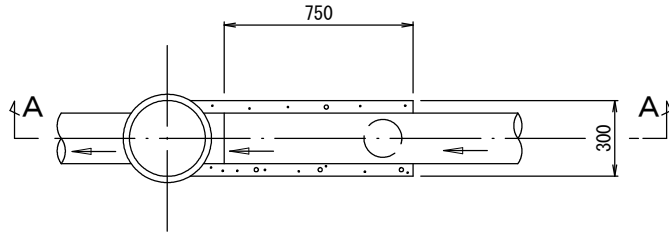
- ※I類資器材指定品(JSWS K-1・K-7・K-9・G-3)とする。
- ※舗装厚さ10cm以下の市道及び歩道に使用する。
- ※国道、府道の車道には使用しない。
- ※道路勾配が平坦な箇所(概ね10%以下)に使用する。
- ※高さ110mmの防護ふたは、コンクリート製又は、レジンコンクリート製台座に緊結する。
- ※上流管きよと下流管きよに段差が生じる場合、会合点には使用しないこと。
- ※内ふたはGLより150mm下がりの位置になるように施工する。

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	硬質塩化ビニル製小型マンホール標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉ノ中 4

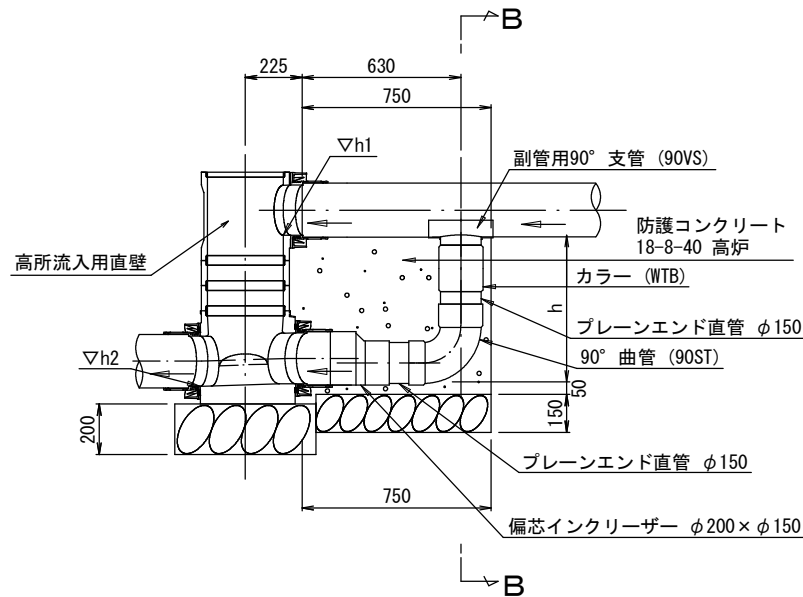
副管標準図 (小型レジンマンホール) S=1:30

(本管φ200 副管φ150)

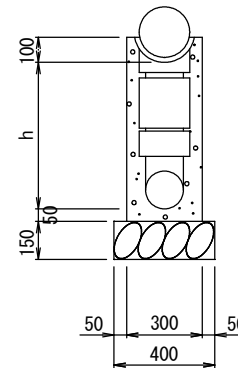
平面図



A-A断面図



B-B断面図

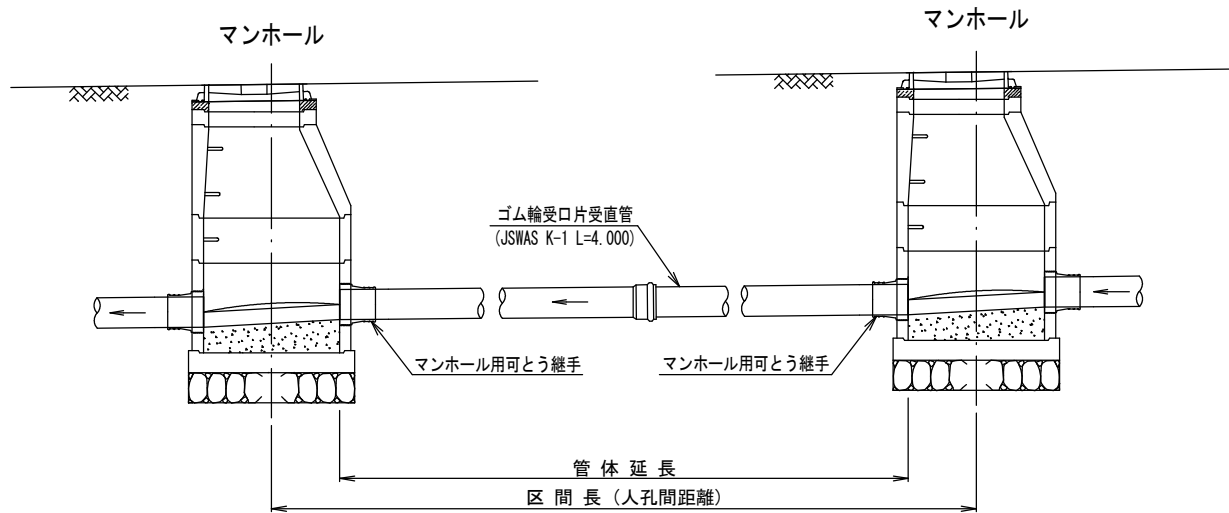


※ I 類資器材指定品 (JSWAS K-1) とする。
 ※ 上流管きよと下流管きよの段差が、0.6m 以上の場合のみ適用する。

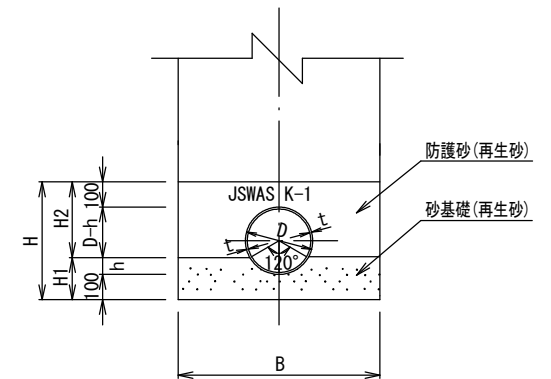
工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	副管標準図 (小型レジンマンホール)
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 5

下水道用硬質塩化ビニル管布設標準図

縦断図 S=1:50



断面図 S=1:30



寸法表

単位 (mm)

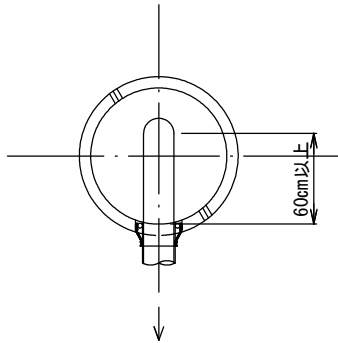
呼び径	肉厚 (t)	外径 (D)	h	H	H1	H2	基礎幅 (B)
150	5.1	165.0	41.3	365.0	141.3	223.7	550
200	6.5	216.0	54.0	416.0	154.0	262.0	800
250	7.8	267.0	66.8	467.0	166.8	300.2	800
300	9.2	318.0	78.5	518.0	178.5	339.5	1000
350	10.5	370.0	92.5	570.0	192.5	377.5	1050

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	下水道用硬質塩化ビニル管布設標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
製図	写図
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 6

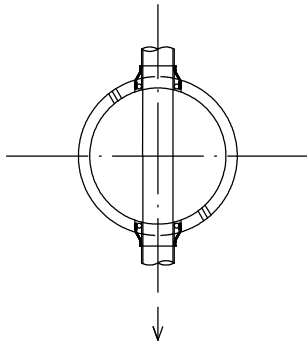
インバート施工図 S=1:50

(1号人孔(内径900mm)の場合)

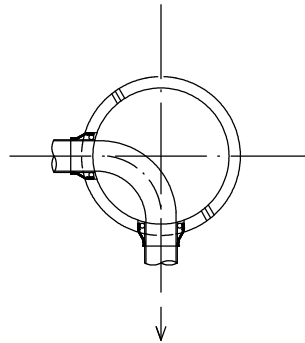
起 点



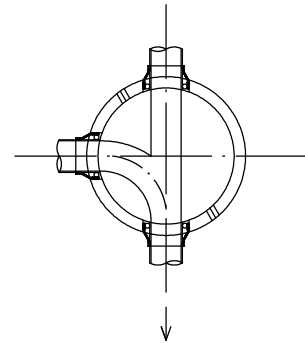
直 線



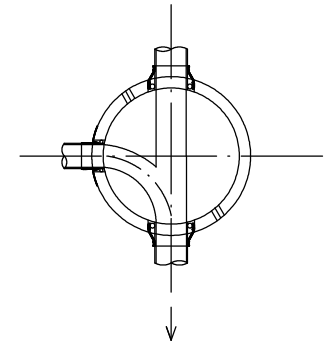
90度曲り



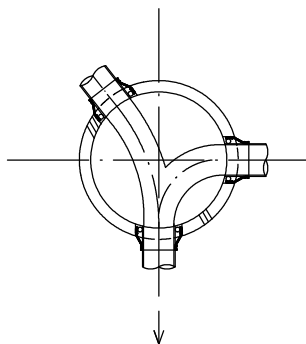
90度流入



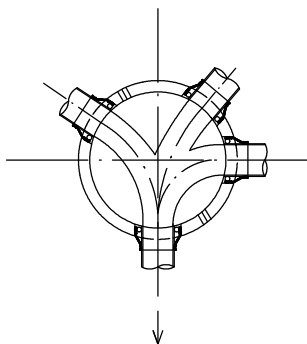
取付管流入



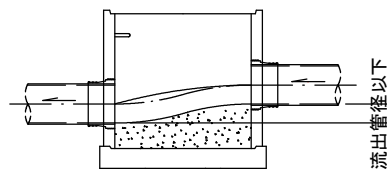
2方向流入



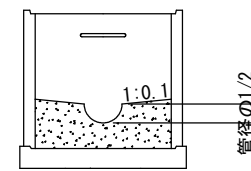
3方向流入



段 差



インバート標準断面

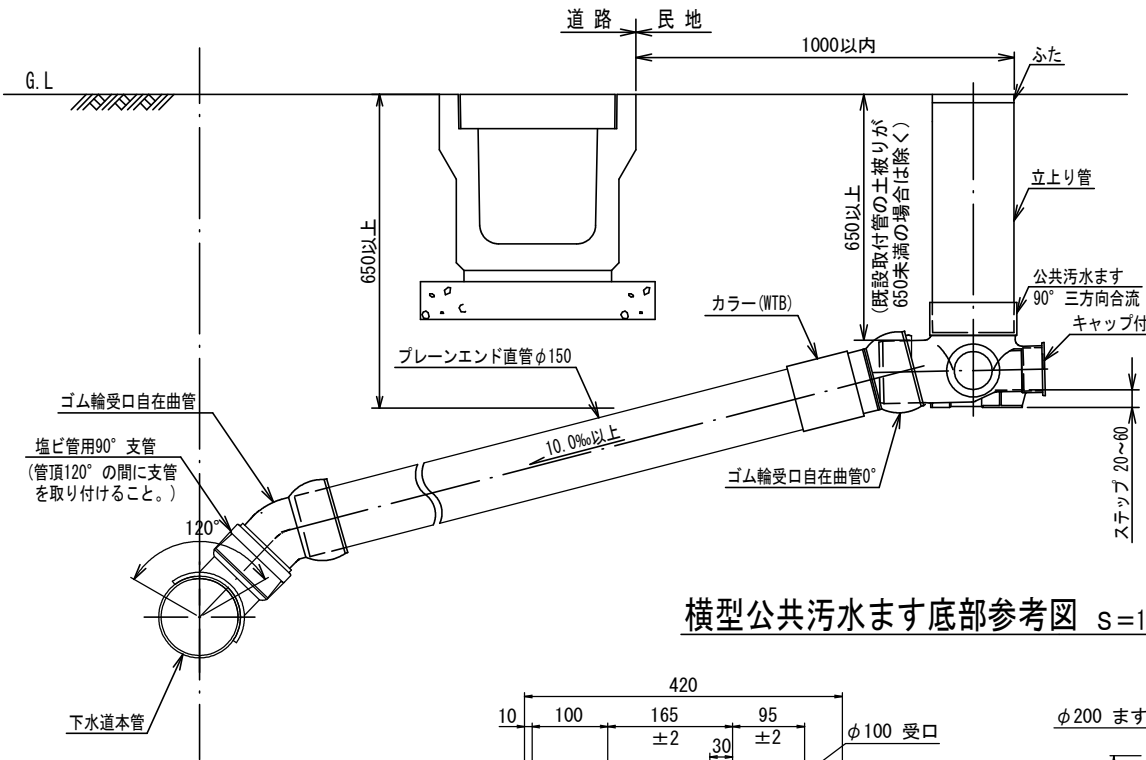


工 種	
起工番号	
工 事 名	
施工箇所	
図面種類	インバート施工図
縮 尺	図 示
課 長	照 査
設 計	製 図
写 真	
月 日	月 日
月 日	月 日
月 日	月 日
図面追次番号	21 葉 / 中 7

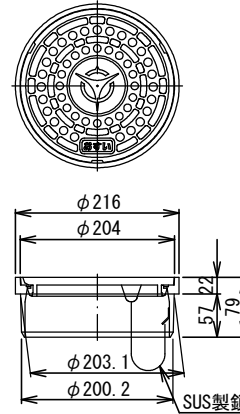
取付管φ150及び標準横型公共汚水ます設置標準図

ます径200 横型 公共汚水ます標準図 s=1:20

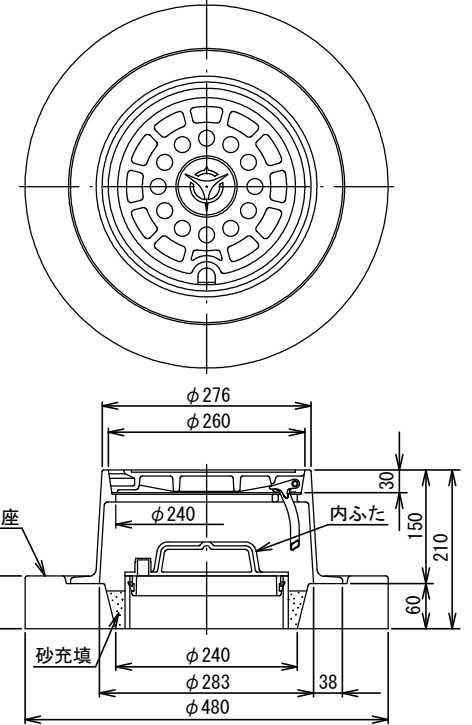
公共汚水ますふた参考図 防護ふた図 s=1:10



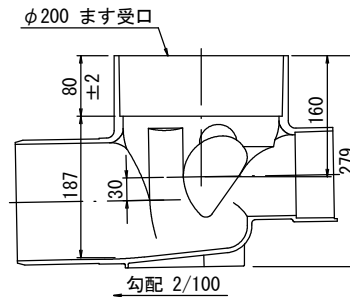
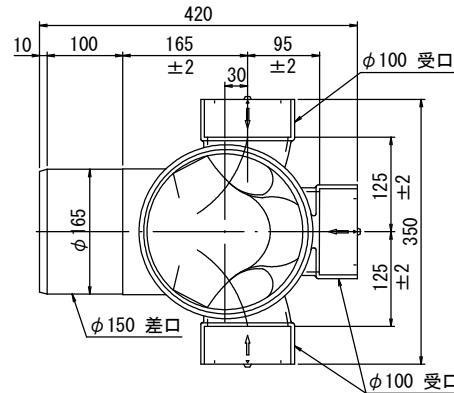
ワンタッチ型
市章入り
(SUS製鎖付)



防護ふた T-14
市章入り

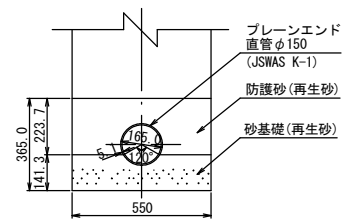


横型公共汚水ます底部参考図 s=1:10



※使用しないφ100流入口については、キャップを設置すること。

取付管断面図 s=1:30

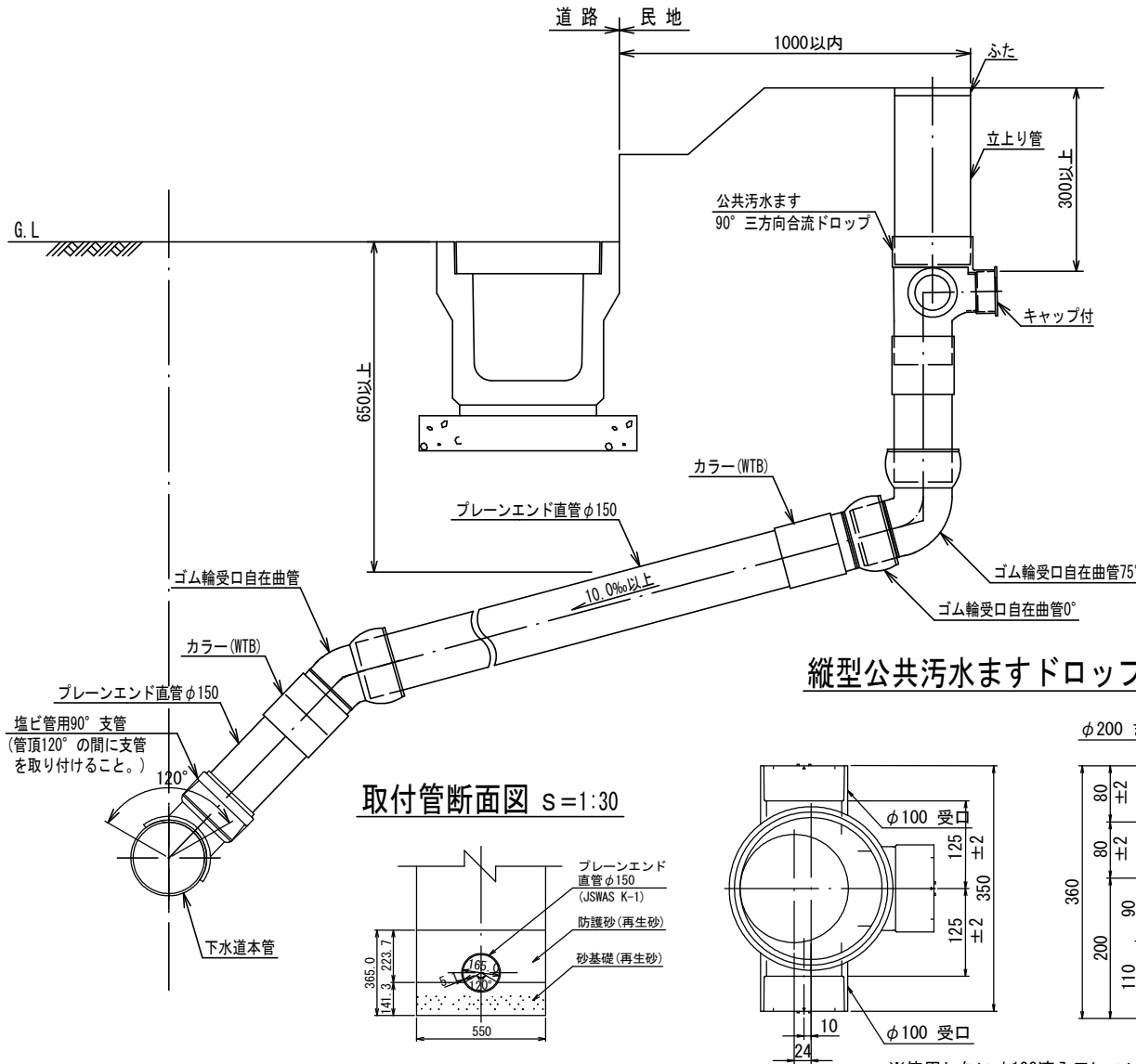


※I類資器材指定品 (JSWAS K-1・K-7・G-3) とする。
 ※防護ふたを設置する場合は、硬質塩化ビニル製内ふたを設置すること。
 ※防護ふたの設置(開閉方向)について、原則として開閉作業が道路側からできるように蝶番の位置を宅地側にする。但し、開閉作業に支障が想定される場合は、担当職員と協議すること。
 ※直管部(立上り管除く)については、ブレンエンド直管もしくはゴム輪受口片受け直管(SRA・SRB)を使用すること。

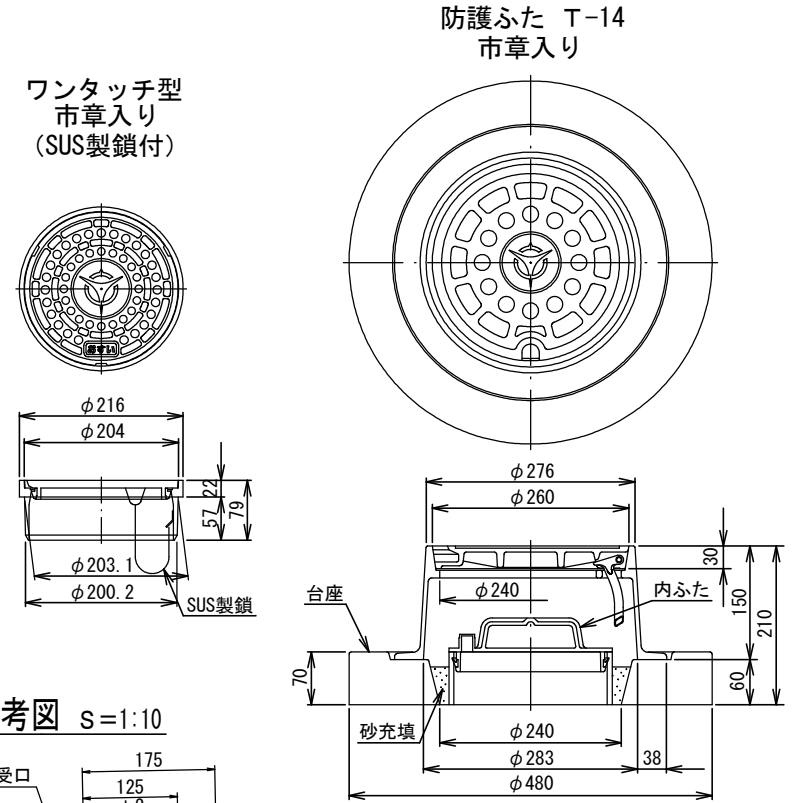
工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ150及び標準横型公共汚水ます設置標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 8

取付管φ150及び標準縦型公共汚水ます設置標準図

ます径200 縦型 公共汚水ます標準図 s=1:20

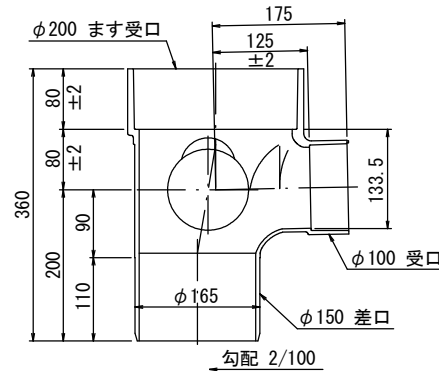
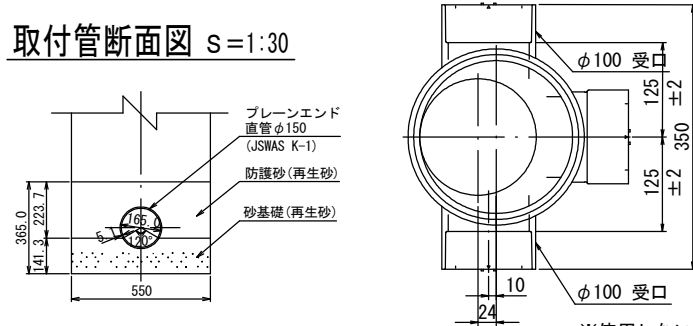


公共汚水ますふた参考図 防護ふた図 s=1:10



縦型公共汚水ますドロップ参考図 s=1:10

取付管断面図 s=1:30



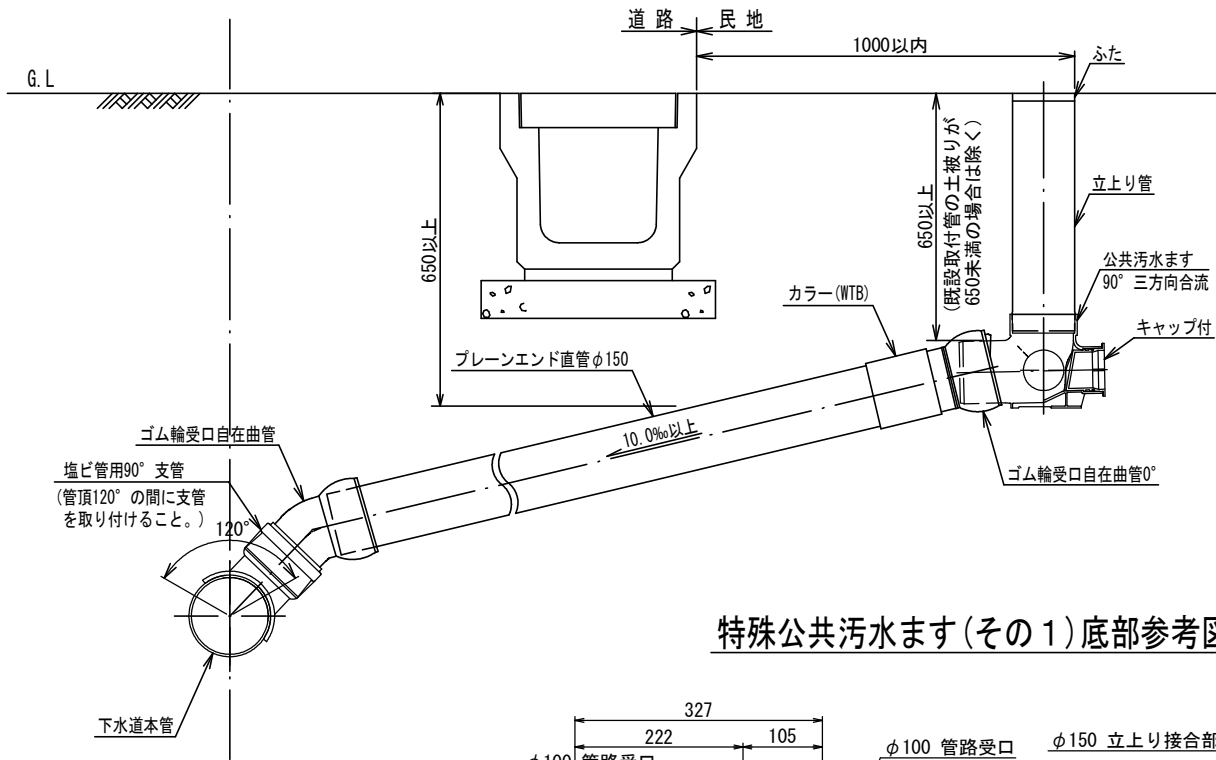
※使用しないφ100流入口については、キャップを設置すること。

※I類資材指定品 (JSWAS K-1・K-7・G-3) とする。
 ※防護ふたを設置する場合は、硬質塩化ビニル製内ふたを設置すること。
 ※防護ふたの設置(開閉方向)について、原則として開閉作業が道路側からできるように蝶番の位置を宅地側にする。但し、開閉作業に支障が想定される場合は、担当職員と協議すること。
 ※直管部(立上り管除く)については、プレーンエンド直管もしくはゴム輪受口片受け直管 (SRA・SRB) を使用すること。

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ150及び標準縦型公共汚水ます設置標準図
縮尺	図示
課長	照査 設計 製図 写図
月日	月日 月日 月日 月日 月日
図面追次番号	21 葉 / 中 9

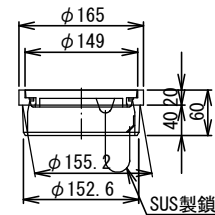
取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その1)横型設置標準図

ます径150 横型 特殊公共汚水ます標準図 s=1:20

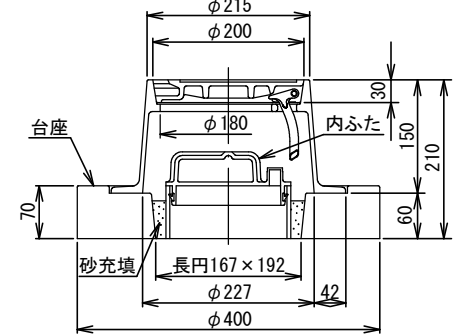
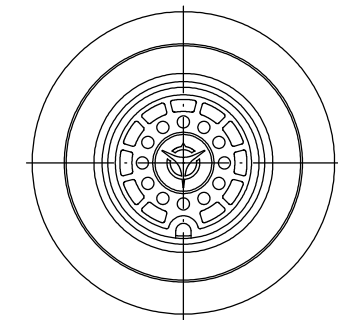


公共汚水ますふた参考図 防護ふた図 s=1:10

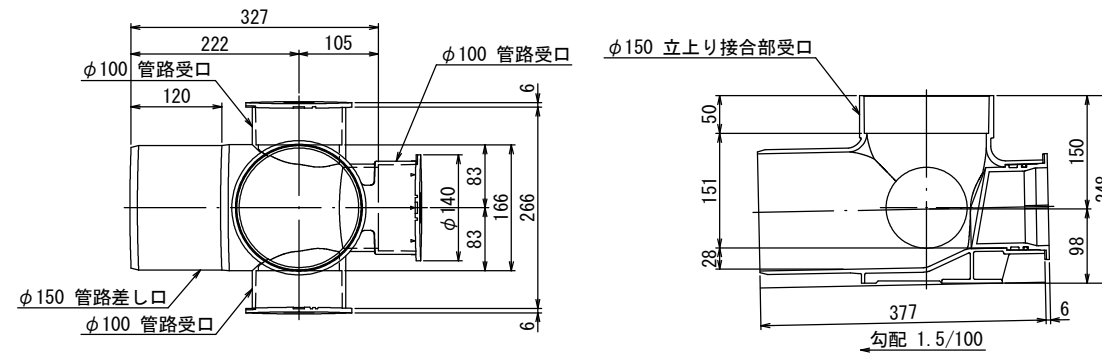
ワンタッチ型
市章入り
(SUS製鎖付)



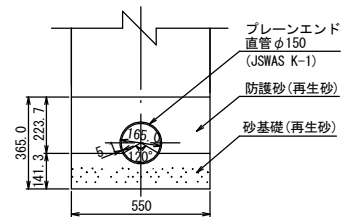
防護ふた T-14
市章入り



特殊公共汚水ます(その1)底部参考図 s=1:10



取付管断面図 s=1:30



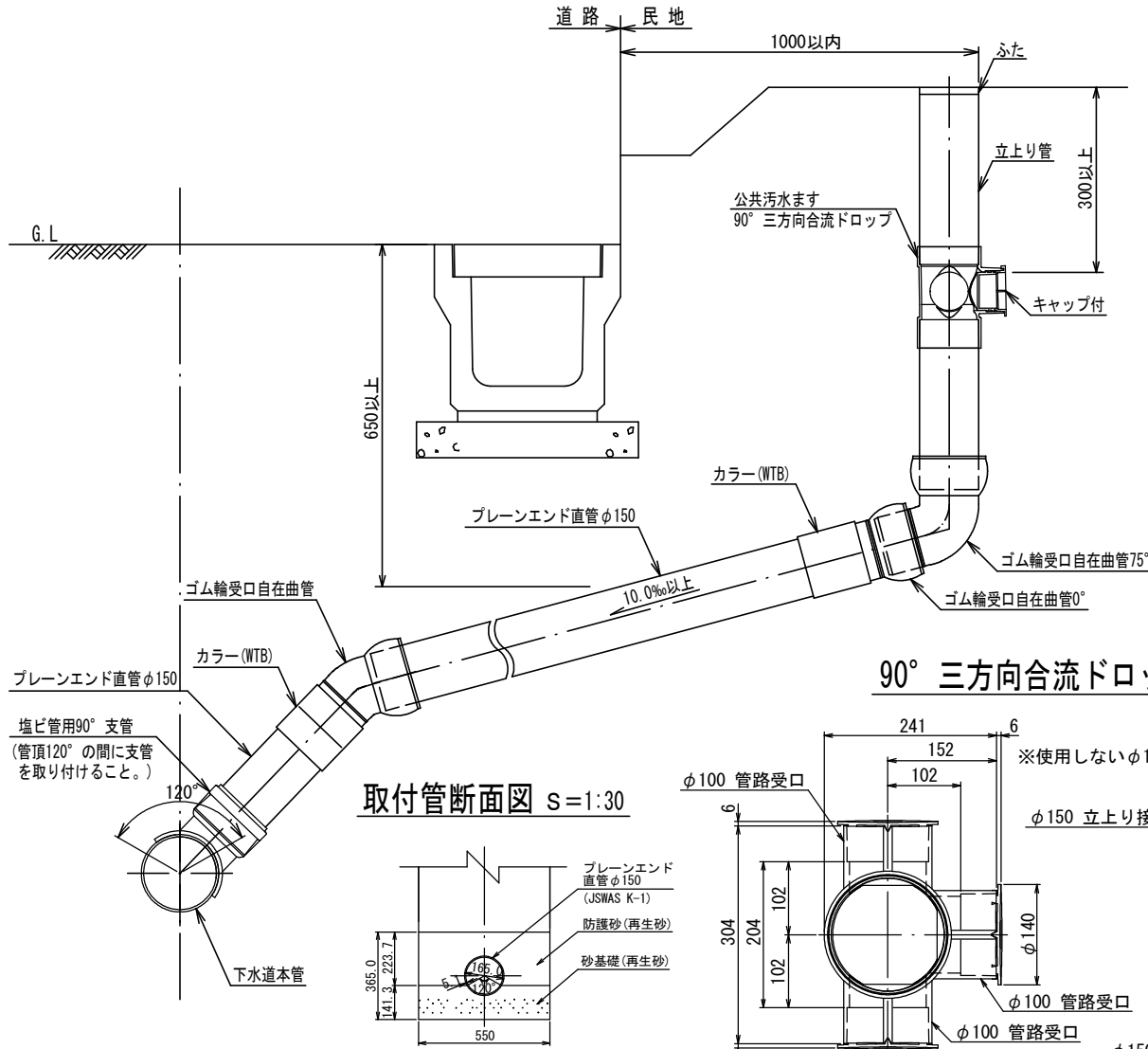
※使用しないφ100流入口については、キャップを設置すること。

※I類資器材指定品 (JSWAS K-1・K-7・G-3) とする。
 ※防護ふたを設置する場合は、硬質塩化ビニル製内ふたを設置すること。
 ※防護ふたの設置(開閉方向)については、原則として開閉作業が道路側からできるように蝶番の位置を宅地側にする。但し、開閉作業に支障が想定される場合は、担当職員と協議すること。
 ※直管部(立上り管除く)については、プレーンエンド直管もしくはゴム輪受口片受け直管 (SRA・SRB) を使用すること。

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その1)横型設置標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉ノ中 10

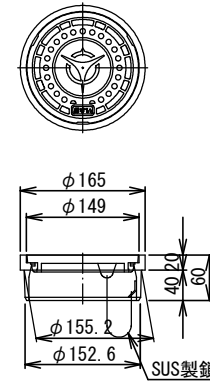
取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その1)縦型設置標準図

ます径150 縦型 特殊公共汚水ます標準図 s=1:20

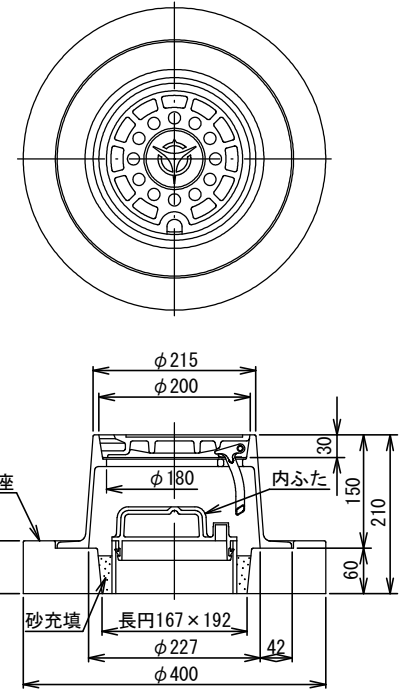


公共汚水ますふた参考図 防護ふた図 s=1:10

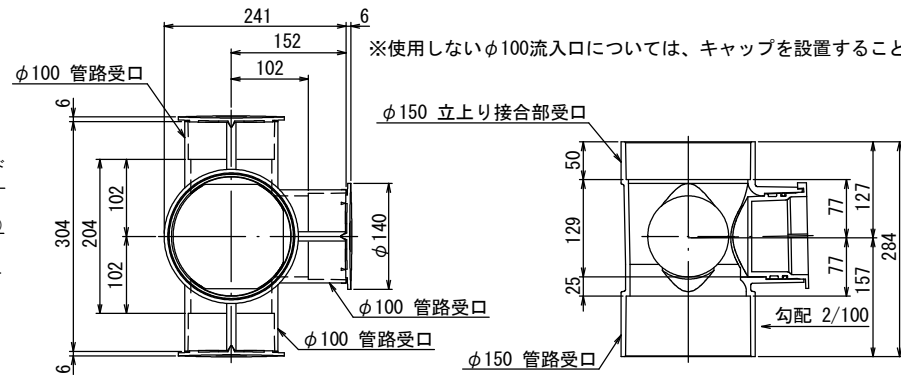
ワンタッチ型
市草入り
(SUS製鎖付)



防護ふた T-14
市草入り



90°三方向合流ドロップ参考図 s=1:10

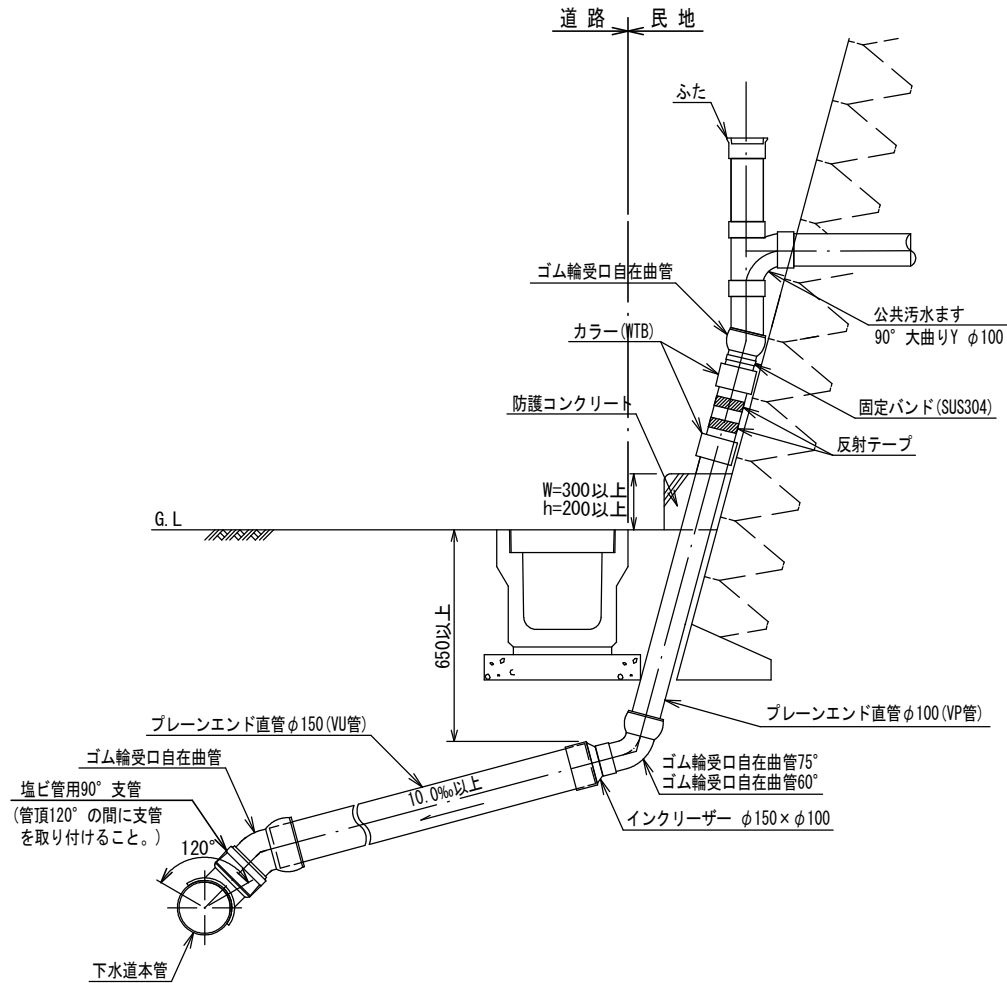


※I類資器材指定品 (JSWAS K-1・K-7・G-3) とする。
 ※防護ふたを設置する場合は、硬質塩化ビニル製内ふたを設置すること。
 ※防護ふたの設置(開閉方向)について、原則として開閉作業が道路側からできるように蝶番の位置を宅地側にする。但し、開閉作業に支障が想定される場合は、担当職員と協議すること。
 ※直管部(立上り管除く)については、プレーンエンド直管もしくはゴム輪受口片受け直管(SRA・SRB)を使用すること。

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その1)縦型設置標準図
縮尺	図示
課長	照査 設計 製図 写図
月日	月日 月日 月日 月日 月日
図面追次番号	21 葉ノ中 11

取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その2)設置標準図

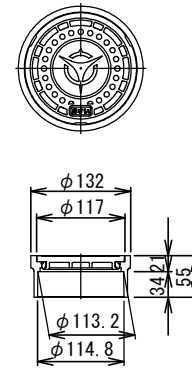
ます径100 特殊公共汚水ます標準図 s=1:30



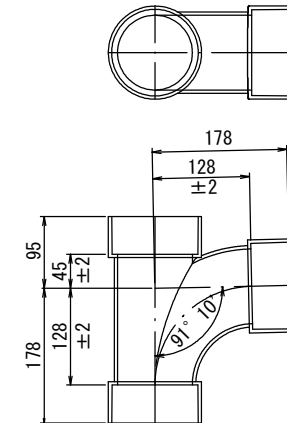
※I類資器材指定品(JSWAS K-1)とする。
 ※立上り管(VP管)については日本産業規格(JIS K 6741)とする。
 ※直管部(立上り管除く)については、プレーンエンド直管もしくはゴム輪受口片受け直管(SRA・SRB)を使用すること。
 ※固定バンドについては、立上り管の高さ及び擁壁の構造等を勘案し、必要に応じて設置すること。

公共汚水ますふた参考図 s=1:10

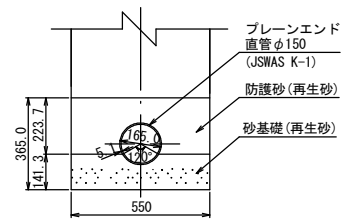
ワンタッチ型
市章入り



90°大曲りY参考図 s=1:10



取付管断面図 s=1:30

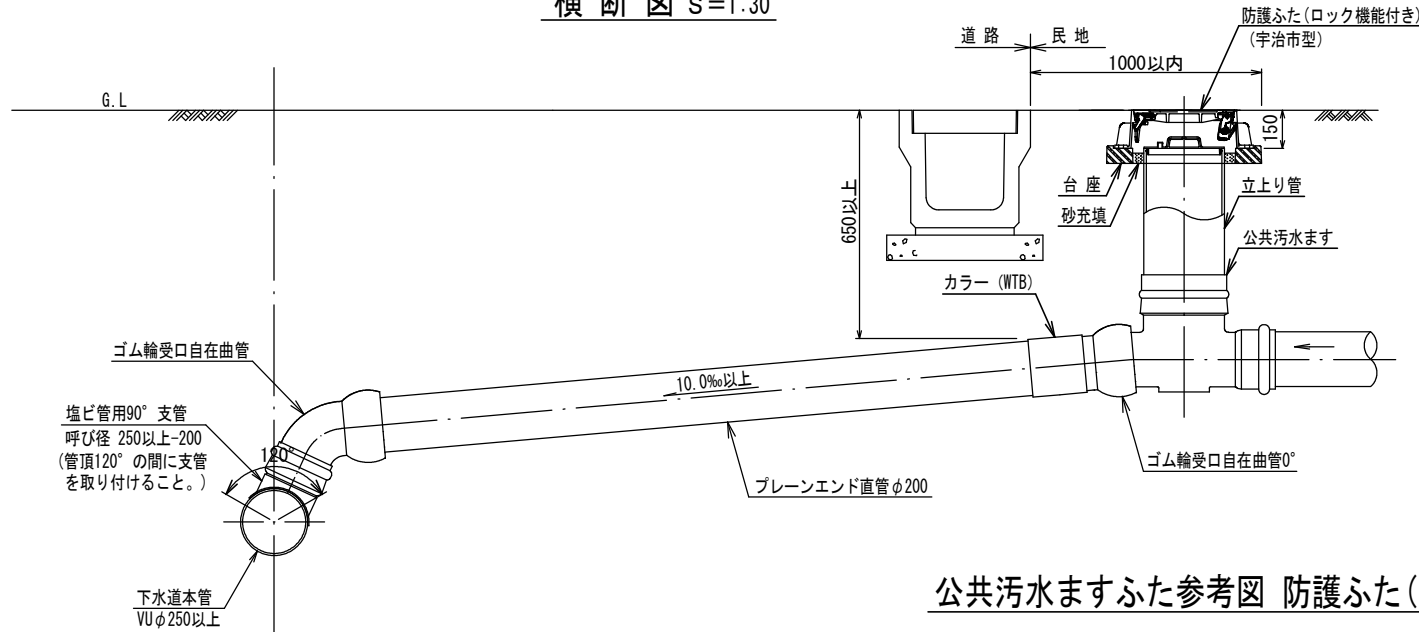


工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ150及び特殊公共汚水ます(その2)設置標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 12

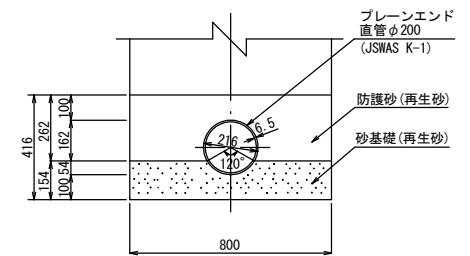
取付管φ200及びφ300塩ビ製公共汚水ます設置標準図

(下水道本管φ250以上)

横断図 s=1:30



取付管断面図 s=1:30

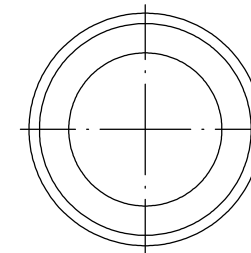


公共汚水ますふた参考図 防護ふた(T-14)図 s=1:20

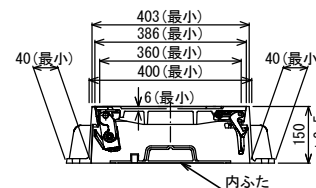
ふた平面図



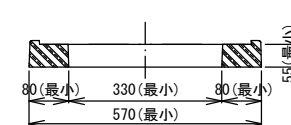
台座平面図



断面図



断面図

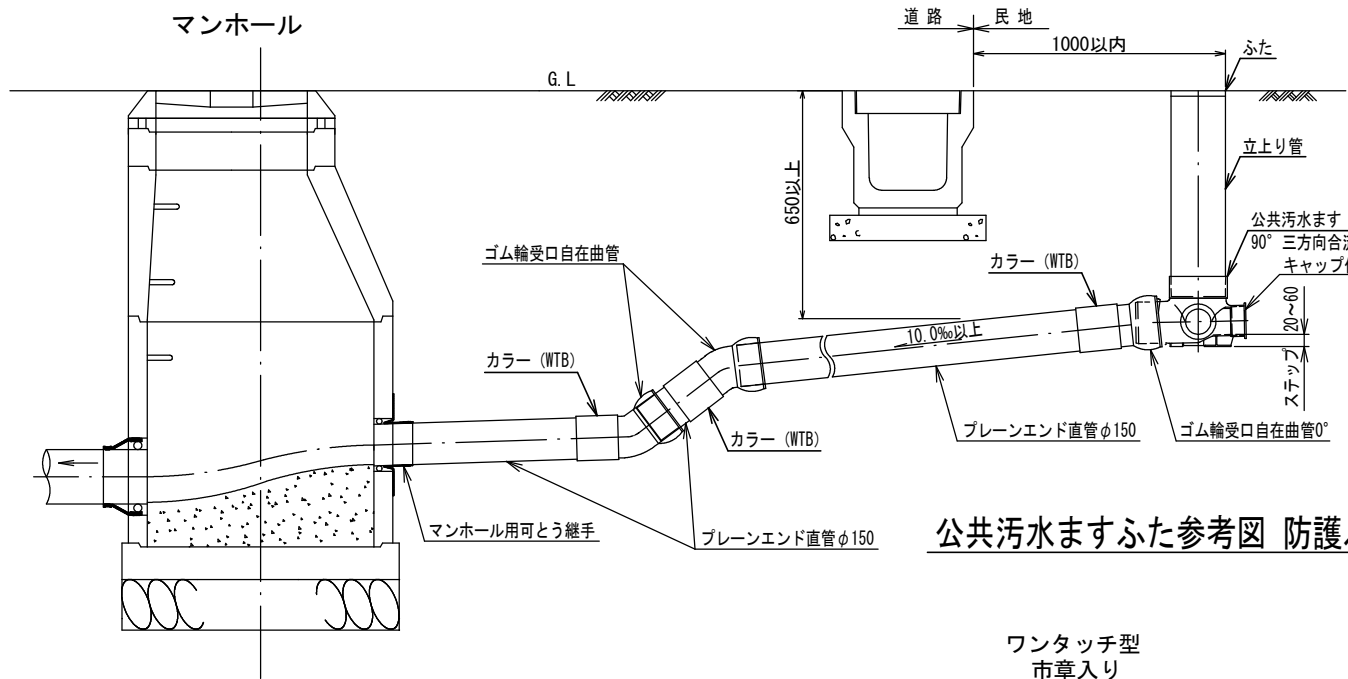


- ※下水道本管の口径が200mmの場合は、原則としてマンホールに接続すること。
- ※I類資器材指定品 (JSWAS K-1・K-7・K-9・G-3) とする。
- ※直管部 (立上り管除く) については、プレーンエンド直管もしくはゴム輪受口片受け直管 (SRA・SRB) を使用すること。
- ※防護ふたの設置 (開閉方向) について、原則として開閉作業が道路側からできるように蝶番の位置を宅地側にすること。但し、開閉作業に支障が想定される場合は、担当職員と協議すること。

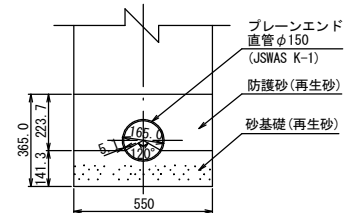
工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ200及びφ300塩ビ製公共汚水ます設置標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 13

取付管φ150マンホール接続標準図

横断図 S=1:30

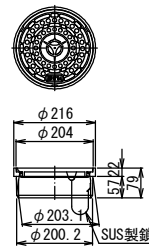


取付管断面図 S=1:30

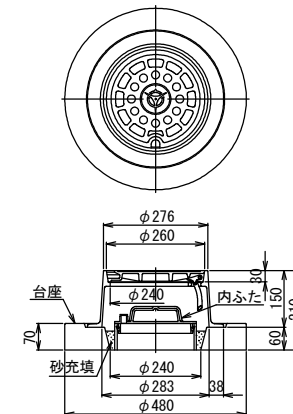


公共汚水ますふた参考図 防護ふた(T-14)図 S=1:20

ワンタッチ型
市章入り
(SUS製鎖付)



防護ふた T-14
市章入り

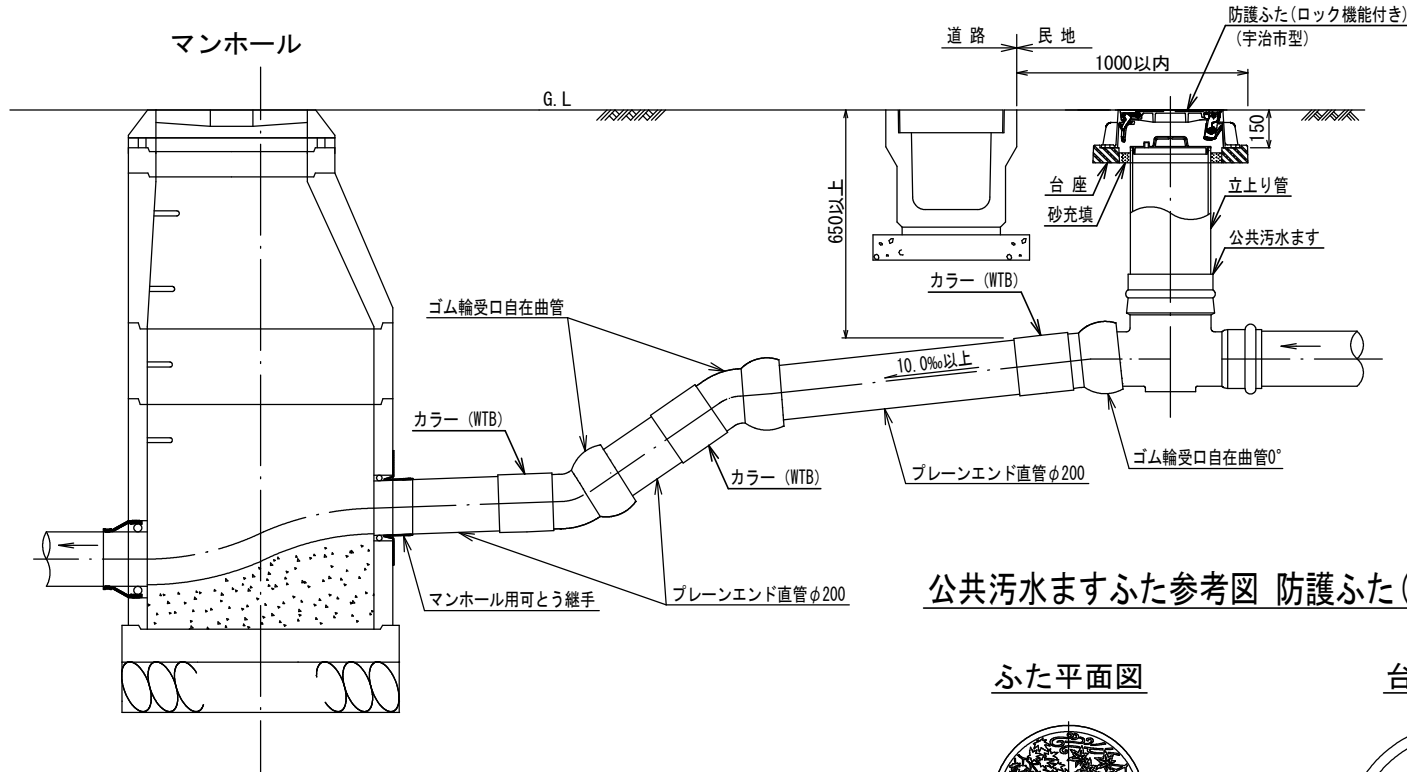


- ※ I 類資器材指定品 (JSWAS K-1・K-7・G-3) とする。
- ※直管部(立上り管除く)については、プレーンエンド直管もしくはゴム輪受口片受け直管(SRA・SRB)を使用すること。
- ※管口削孔はブロックの継目より10cm以上離隔を確保すること。
- ※下流管口とのステップ(段差)は15cmとすること。
- ※既設マンホールに接続する場合においても、必ず可とう継手を設置すること。
- ※防護ふたの設置(開閉方向)について、原則として開閉作業が道路側からできるように蝶番の位置を宅地側にすること。但し、開閉作業に支障が想定される場合は、担当職員と協議すること。

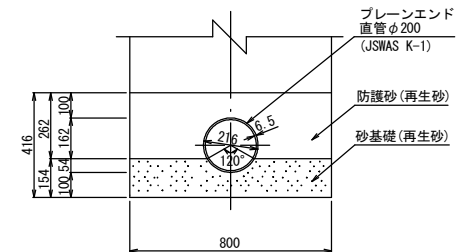
工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ150マンホール接続標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉ノ中 14

取付管φ200マンホール接続標準図

横断図 S=1:30



取付管断面図 S=1:30

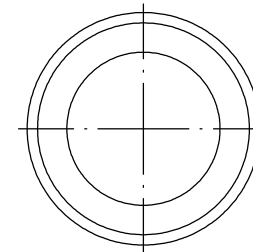


公共汚水ますふた参考図 防護ふた(T-14)図 S=1:20

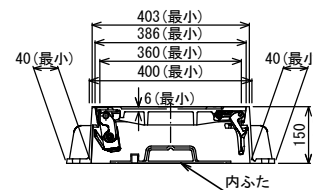
ふた平面図



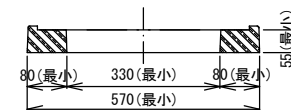
台座平面図



断面図



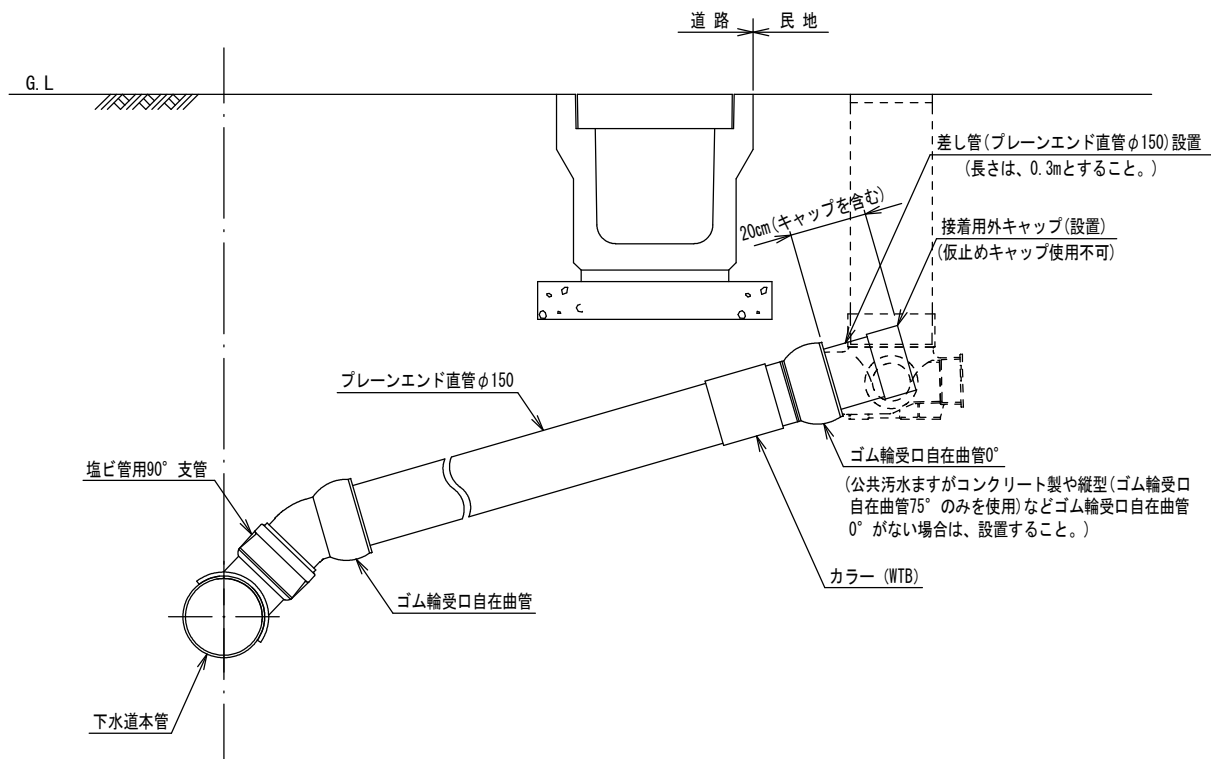
断面図



- ※ I 類資器材指定品 (JSWAS K-1・K-7・K-9・G-3) とする。
- ※直管部(立上り管除く)については、プレーンエンド直管もしくはゴム輪受口片受け直管(SRA・SRB)を使用すること。
- ※管口削孔はブロックの継目より10cm以上離隔を確保すること。
- ※下流管口とのステップ(段差)は20cmとすること。
- ※既設マンホールに接続する場合においても、必ず可とう継手を設置すること。
- ※防護ふたの設置(開閉方向)について、原則として開閉作業が道路側からできるように蝶番の位置を宅地側にすること。但し、開閉作業に支障が想定される場合は、担当職員と協議すること。

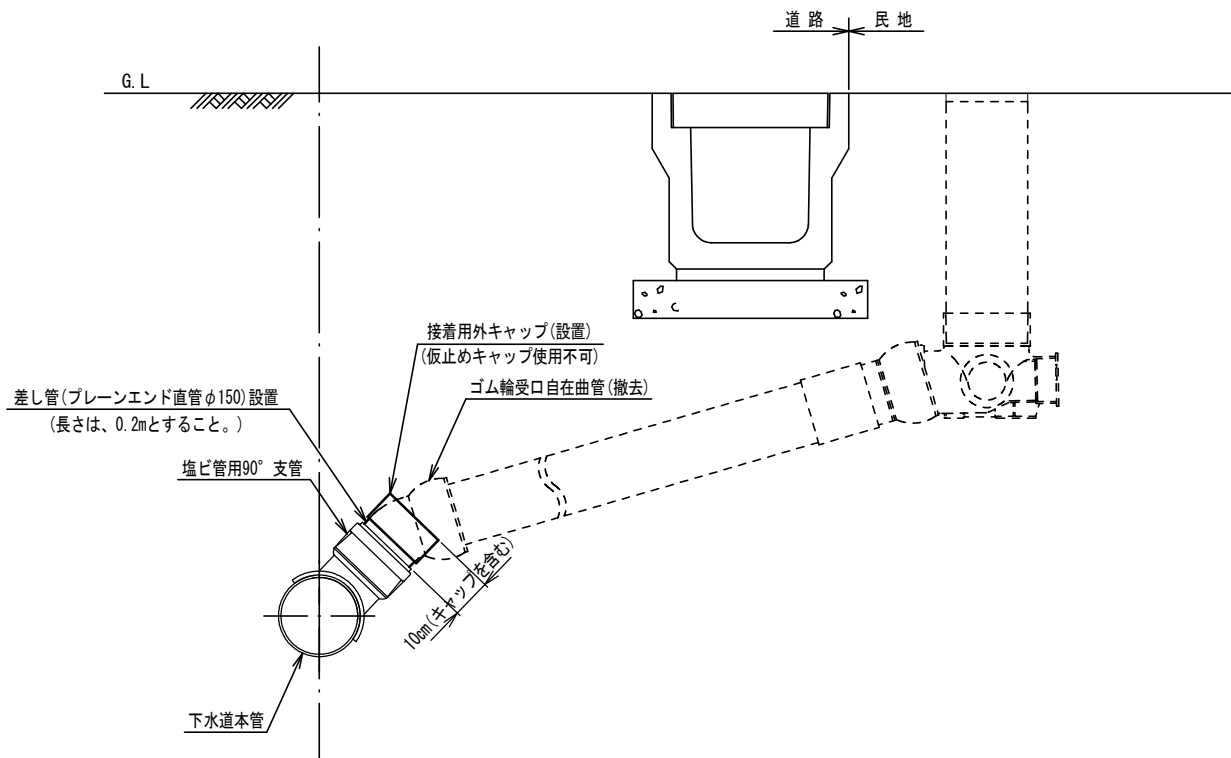
工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ200マンホール接続標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉ノ中 15

取付管φ150官民境界部キャップ止め標準図 S=1:20



工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ150官民境界部キャップ止め標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 16

取付管φ150支管部キャップ止め標準図 S=1:20

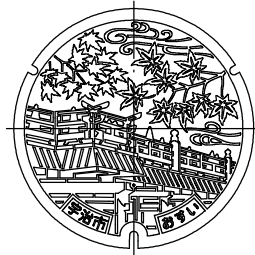


工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	取付管φ150支管部キャップ止め標準図
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 17

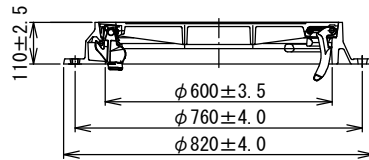
宇治市型鑄鉄製マンホール蓋 S=1:20

(JSWAS G-4 呼び600)

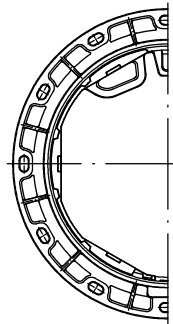
蓋平面図



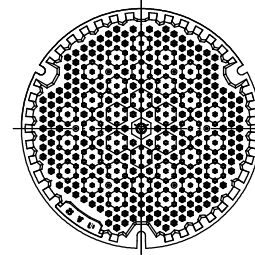
断面図



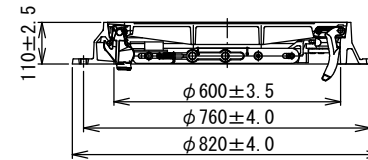
受枠平面図



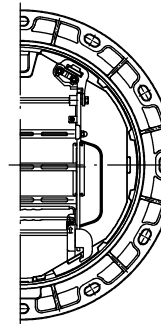
蓋平面図
(スリップ防止型)



断面図
(転落防止装置付)



受枠平面図



※ I 類資器材指定品 (JSWAS G-4) で、且つ、宇治市が認定したものを使用すること。
 ※蓋のデザインについては、宇治市デザインを使用すること。
 ※車道部は T-25、歩道部は T-14 を使用すること。ただし、歩道内でも大型車両の通行が見込まれる箇所では、T-25 を使用すること。
 ※マンホール深が 2.0m 以上の場合は、転落防止装置を設置すること。

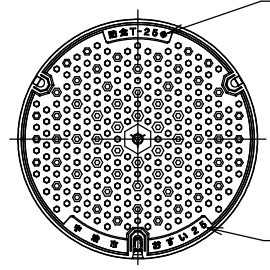
(参考図)

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	宇治市型鑄鉄製マンホール蓋
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
製図	写図
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 18

宇治市型鑄鉄製マンホール蓋(次世代型) S=1:20

(JSWAS G-4 呼び600)

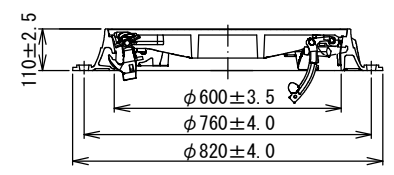
蓋平面図



荷重区分
防食使用の表示
製造業者マーク又は略号

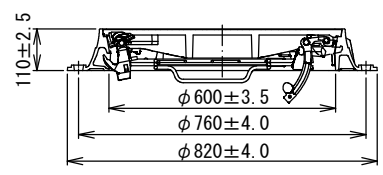
製造年(西暦下2桁)
排除方式「おすい」

断面図

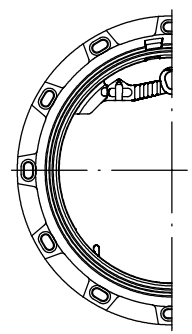


断面図

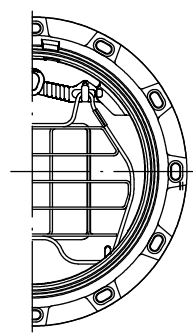
(転落防止装置付)



受枠平面図



受枠平面図



※公益社団法人 日本下水道協会資器材Ⅱ類登録品(JSWAS G-4)であること。
 ※公益財団法人 日本下水道新技術機構発行『アセットマネジメントの実践に向けた次世代マンホール蓋技術マニュアル』(2024年6月発行)に準拠し、宇治市が認定したものをを使用すること。
 ※防食性能を有することを目視認識できること。
 ※宇治市市章入りを使用すること。
 ※車道部はT-25、歩道部はT-14を使用すること。ただし、歩道内でも大型車両の通行が見込まれる箇所では、T-25を使用すること。
 ※マンホール深が2.0m以上の場合には、転落防止装置を設置すること。

(参考図)

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	宇治市型鑄鉄製マンホール蓋(次世代型)
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 19

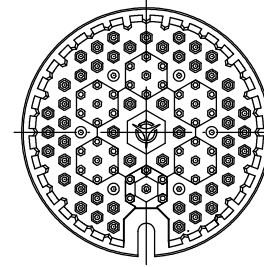
宇治市型鑄鉄製マンホール蓋(小型レジンマンホール用) S=1:10

(JSWAS G-4 呼び300)

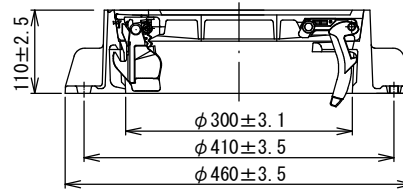
蓋平面図



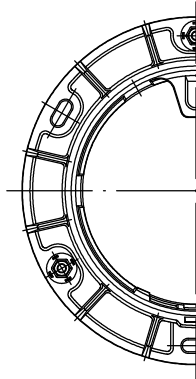
蓋平面図
(スリップ防止型)



断面図



受枠平面図



※ I 類資器材指定品 (JSWAS G-4) で、且つ、宇治市が認定したものを使用すること。

※ 蓋は容易に開放できないよう、ロック機能を備えた構造とする。

※ 蓋のデザインについては、宇治市デザインを使用すること。

※ 車道部は T-25、歩道部は T-14 を使用すること。ただし、歩道内でも大型車両の通行が見込まれる箇所では、T-25 を使用すること。

(参考図)

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	宇治市型鑄鉄製マンホール蓋 (小型レジンマンホール用)
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉 / 中 20

宇治市型鑄鉄製防護ふた(硬質塩化ビニル製小型マンホール用) S=1:10

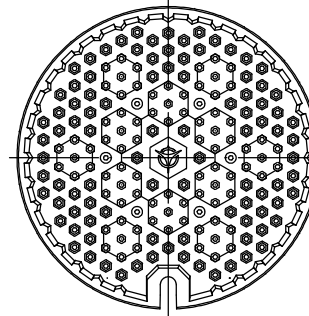
(JSWAS G-3)

ふた平面図

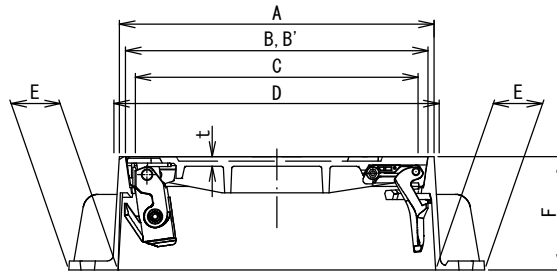


ふた平面図

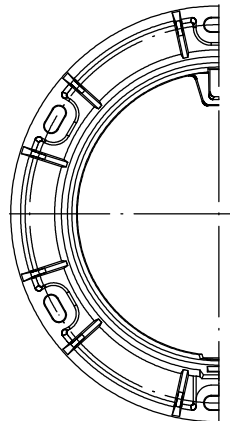
(スリップ防止型)



断面図



受枠平面図



【標準型防護ふた T-25, T-14 寸法表】

(単位: mm)

呼び	高さ (許容差 ±2.5)	台座の材質	A	B, B'	C	D	E	t
	F		(最小)	(最小)	(最小)	(最小)	(最小)	(最小)
300	110	レジンコンクリート・鉄筋コンクリート	403	386	360	400	40	6
	150	再生プラスチック・レジンコンクリート						

※ Bはふたの外径、B'は枠の内径を示す。

※ I類資器材指定品 (JSWAS G-3) で、且つ、宇治市が認定したものをを使用すること。
 ※ふたは容易に開放できないよう、ロック機能を備えた構造とする。
 ※ふたのデザインについては、宇治市デザインを使用すること。
 ※車道部はT-25、歩道部はT-14を使用すること。ただし、歩道内でも大型車両の通行が見込まれる箇所では、T-25を使用すること。

(参考図)

工種	
起工番号	
工事名	
施工箇所	
図面種類	宇治市型鑄鉄製防護ふた (硬質塩化ビニル製小型マンホール用)
縮尺	図示
課長	照査
設計	製図
写図	
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
月日	月日
図面追次番号	21 葉ノ中 21